

Ⅲ 契約指定野菜安定供給事業に関する業務

1 交付予約数量及び資金造成

平成 16 年度の交付予約数量は、8 登録出荷団体等、26 業務区分の 8,531.4 トンとなった。

事業タイプ別でみると、価格低落タイプが 656 トン、出荷調整タイプが 3,774.4 トン、数量確保タイプが 4,101.0 トンであり、種別別でみると、冬キャベツ、冬春きゅうり、たまねぎ、冬春なす、秋冬ねぎ〔調製〕、ばれいしょ、冬春ピーマン、夏秋レタス〔結球・非結球〕及び冬レタスであった。

都道府県別では、北海道、青森県、長野県、愛知県、高知県、熊本県及び宮崎県の 7 県であった。

資金造成額は、172,660 千円となった。内訳は、価格低落タイプが 60,839 千円、出荷調整タイプが 47,396 千円、数量確保タイプが 64,425 千円であった。

2 生産者補給交付金等の実施状況

平成 16 年産の春野菜は、4 月は好天・高温で入荷量が増加したことから、きゅうり、ピーマン、にんじん等ほとんどの品目で価格が低下したものの、5 月、6 月は天候不順・出荷の前進化等の影響で入荷量が減少したことから、キャベツ、レタス等を中心に堅調な価格となった。

夏秋野菜については、7 月、8 月は一部産地で台風等の被害があったものの、全国的に高温・干ばつの影響から品質にばらつきがあったことや需要の低迷等から軟調な価格となった。9 月は台風等の影響で入荷量が減少したことから、にんじん、はくさい、キャベツ、だいこん等を除いてほぼ平年並みの価格となった。

秋冬野菜は、10 月、11 月は相次ぐ台風等の影響で入荷量が大幅に減少したことから、レタス、きゅうり等の葉茎菜類、果菜類を中心に価格が平年を大きく上回って推移した。

12 月に入り台風等の被害等で落ち込んでいた入荷量は、暖冬で生育が進んだことから回復し、全体的には平年並みの価格となり、レタス、きゅうり等は、平年を下回る価格推移となった。

このような気象動向を反映し、冬春ピーマン、冬春きゅうり、冬春なすの価格低落タイプで生産者補給交付金等の交付を行うこととなった。

交付金交付額は、11,173 千円であった。内訳は、価格低落タイプが 6,479 千円、数量確保タイプが 4,694 千円であった。